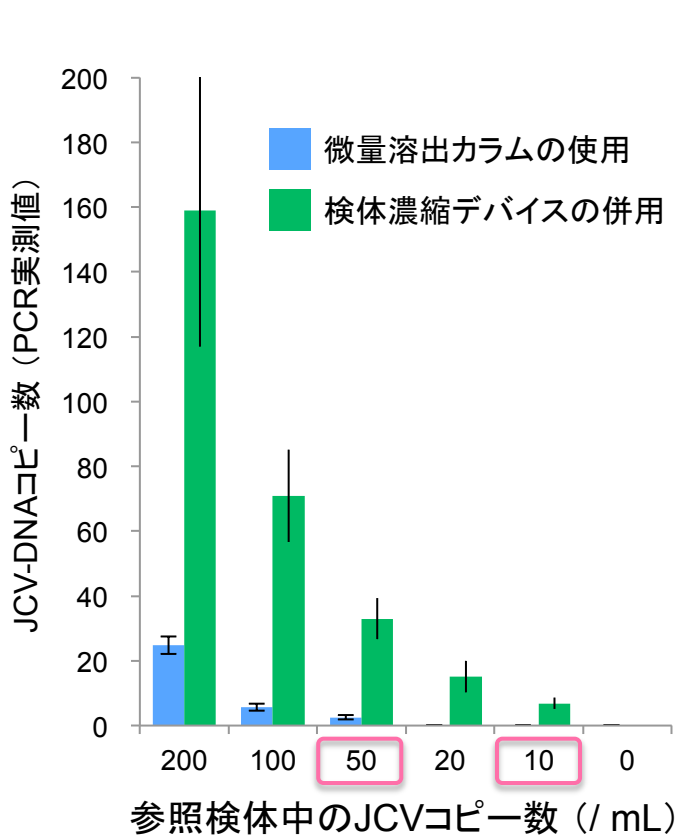


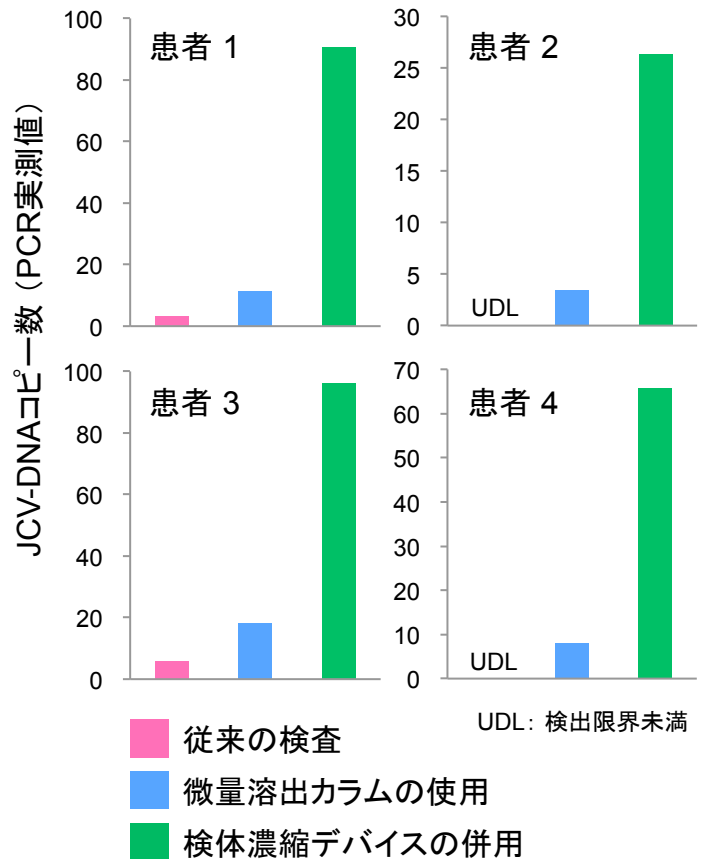
日本における進行性多巣性白質脳症(PML)のサーベイランスとその特徴の解析を通じたPML発症因子の解明および診断法の開発

研究開発分担者： 国立感染症研究所ウイルス第一部 西條政幸

① 脳脊髄液中JCウイルスを標的とした 超高感度PCR検査系の開発



② 従来のPCR検査系との感度の比較



解 説

1. 進行性多巣性白質脳症(PML)の病原体であるJCウイルスのゲノムDNAをより高感度かつ定量的に検出するためのPCR検査系を開発した。
2. 脳脊髄液からJCV-DNAを抽出する際に微量溶出カラムを使用した場合のPCR検査の検出下限値は50コピー/mL、検体を濃縮するデバイスを併用した場合の検出下限値は10コピー/mLであった。
3. これらの超高感度PCR検査系を用いることで、微量のJCV-DNAを安定的に検出することが可能であり、PMLの早期診断等に貢献する。